

○リサイクルメダルに関する取組状況

2020年東京オリンピック・パラリンピックのメダルに
回収金属を活用することについての提案

都市鉱山で甦る 黄金の国ジパング

◎提案の背景

- 「都市鉱山」に埋もれた有用金属の有効活用
- 鉱物資源採掘に伴う環境問題への対応
- ⇒有用金属リサイクルが重要に

◎提案理由

- ①環境に配慮した大会であることを世界に発信
- ②リサイクルの重要性を広く周知
- ③日本の高度なりサイクル技術を世界に発信

小型家電
約1.7トン
↓
金メダル
1個分の
金
(約6g)

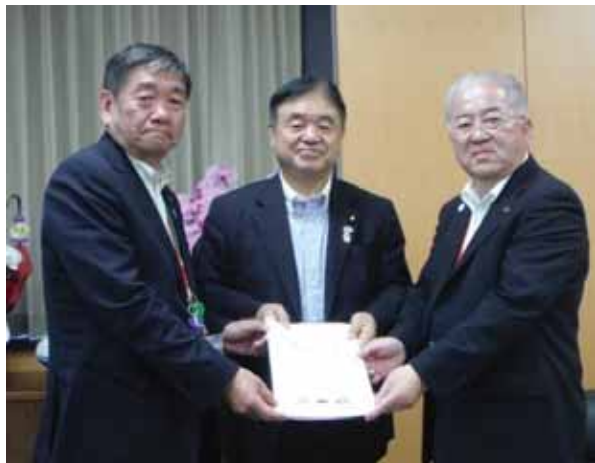
※平成26年度認定事業者の再資源化実績に基づき算定。金メダルに使用される金の重量は北京大会の例による。

◎経過

- (※平成26年6月～ 一関市による取り組み)
- 平成27年5月～ 八戸、大館、一関の3市連携による取り組み
- (東北における小型家電リサイクル法認定事業者所在3市)



勝部修一関市長・福原淳嗣大館市長・小林真八戸市長



遠藤大臣(当時)へ提案書を提出(平成27年7月23日)

(1) 3市提案活動

- 平成27年6月 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 森喜朗会長、武藤敏郎事務総長へ提案書を提出
- 平成27年7月 遠藤利明 東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣へ提案書を提出
- 平成27年6・7月 関係省庁(経済産業省、環境省)へ提案書を提出
- 平成28年2月 大会組織委員会へ「『持続可能性に配慮した運営計画フレームワーク』についての提案」を提出

参考(組織委員会)

- 平成28年7月 「東京2020アクション&レガシープラン2016」に「都市鉱山の活用検討(大会のメダルの製造の検討)」記載
- 平成28年11月 「都市鉱山からつくる! みんなのメダルプロジェクト(仮称)」を発表

(2) 広報等

- 広報紙や啓発グッズ等による小型家電リサイクルの啓発
- 3市共同提案の周知の取組



チラシ(八戸市)



ポスター(大館市)



グッズ(一関市)

○リサイクルメダルに関する取組状況



3R推進シンポジウム
～こでんのゆくま～

「こでん」は、まちごとですべてのリサイクルを2115の資源を削減しています。この「こでん」を掲げて、リサイクルを推進しようとする取り組みが広がっています。集めた「こでん」が、まちの未来を支えます。このシンポジウムで、まちの未来を一緒に考えていきましょう。

「こでん」＝使用済 小家電・電化製品・古物・家電

開催日時 7月9日(生) 11:20～16:00
大館樹海ドーム特設ステージ

○基調講演
「ご存じですか？小型家電リサイクル！」
環境省資源循環部、リサイクル推進課 森田 有一氏

○パネルディスカッション
こでんはどこへ行くの？
～こでん回収でオリンピック参加～

コーディネーター 大西 正 貴氏
パネリスト 細田 衛士氏、中村 崇 氏、森田 有一氏、星谷 多英氏、福原 淳 嗣

○オリンピック金メダリスト講話
～国民参加のオリンピックを目指して～

「夢への挑戦」 柔道 古賀 稔彦 氏
「人生コブあり谷あり」 モーグル 里谷 多英 氏

基調講演

●「ご存じですか？小型家電リサイクル！」
環境省リサイクル推進室長補佐 森田有一氏

ディスカッションに先立ち、小型家電リサイクル推進に関する国の現状を、我が国の30年の歴史的な背景、世界との対比を交えてご説明いただきました。「こでん」回収の必要性、「都市鉱山」たる日本の優位性を、観客を巻き込むアクティブ＆ユニークな手法でご講話くださいました。



パネルディスカッション

●「こでんはどこへ行くの？～こでん回収でオリンピック参加～」

コーディネーター	関西大学名誉教授	大西正貴氏
パネリスト	慶應義塾大学教授	細田衛士氏
	東北大学教授	中村崇氏
	環境省	森田有一氏
	アスリート	星谷多英氏
	大館市長	福原淳嗣

なぜ小型家電リサイクル法が作られ、また促進型という手法をとられたか、問答の形で取り役である環境省森田氏の説明と、各分野の第一人者である細田教授、中村教授から疑問を頂きました。全国に先駆けで小型家電の回収試験を「大館」で行うこととなった経緯を語ります。会場は「大館」から2020年東京オリンピックへ向けたアプローチ、そして市長が持つ未来の大館、環境共生都市のビジョンまでを、多角的、多面的に議論し、ディスカッションしていただきました。



○リサイクルメダルに関する取組状況

オリンピックメダリスト講話

●「夢への挑戦」 柔道 古賀 稔彦 氏

○1992 バルセロナオリンピック金メダリスト
○1996 アトランタオリンピック銅メダリスト

世界選手権2階級制覇、オリンピック二次会連続でメダルを獲得するなど、自身の輝かしい栄光をバックグラウンドに、挑戦へのモチベーション維持、目標との付き合い方など、スポーツに勝つ「夢」実現のための心がまえを話いただきました。当日は「平成の三曲星」の一手一役を果敢と貫きつと、最前列に並びつと、最前列がズラリ、2020 東京オリンピックへ向け、『大館の三曲星』たちが手ほどきを受けました。



●「人生コブあり谷あり」 モーグル 里谷 多英 氏

○1996 長野オリンピック金メダリスト
○2002 サルトルイクオリンピック銅メダリスト

五大会連続でオリンピックに出場、長野では日本人初となる冬季五輪金メダルを獲得するなど、常に第一線で活躍してきた輝かしい競技人生の影には、進方もない失敗・挫折があった。順と逆、すべての経験が元気に笑って過ごせる今の自分につながっているという人生講話をいただきました。



大館市は、八戸市、一関市とともに「使用済小型家電から回収された金属で2020年東京オリンピックのメダルを作ろう」を掲げ、実現に向け組織委員会へ提案するなどの取り組みをしています。本シンポジウムでは、オリンピックにおいて金・銀・銅メダルを獲得すべく日々鍛錬を重ねるアスリートの立場から「こでん」回収を応援していただき、タグをねむことで小型家電の回収を盛り上げようとするものです。ご話いただいたアスリートからは「エコメダル実現に向け大館市はがんばっています。しかし、金メダルは一人では作れない、みんなで盛り上げよう」とのメッセージもあり、取り組みをいっそう盛り上げていただきました。

大館市エコフェア
マンモスフリーマーケット
7.9 sat ~ 7.10 sun
ところ：大館樹海ドーム



エコフェア出版部 (五十巻版)

2020年7月開催
大館市エコフェア出版部
大館市エコフェア出版部
大館市エコフェア出版部
大館市エコフェア出版部

主催：大館市・自治総合センター
このシンポジウムは全国コーディネーターと賛成賛成者協議会からの協力を受けて実施いたします。

○小型家電の回収増へ向けての取り組み

○ボックス回収

平成28年度の取り組み

- ・新たにボックスを5台購入
市内13箇所 → 市内18箇所に増加
(内民間施設5店舗)

- ・投入口サイズを拡大

平成29年度の取り組み

新たに14台購入し、市内全公民館(24箇所)に設置。

○ピックアップ回収

平成29年度の取り組み

回収作業員を増やし、ピックアップ回収量の増加を図る。



小型家電回収ボックス



収集した不燃ごみからのピックアップ回収

○小型家電の回収増へ向けての取り組み

- ① 公共施設でのボックス回収(一関市内42カ所)
- ② イベント回収(市内8カ所各1日、古着回収と同時実施)
- ③ 協力事業所(3企業)でのボックス回収



①公共施設回収ボックス



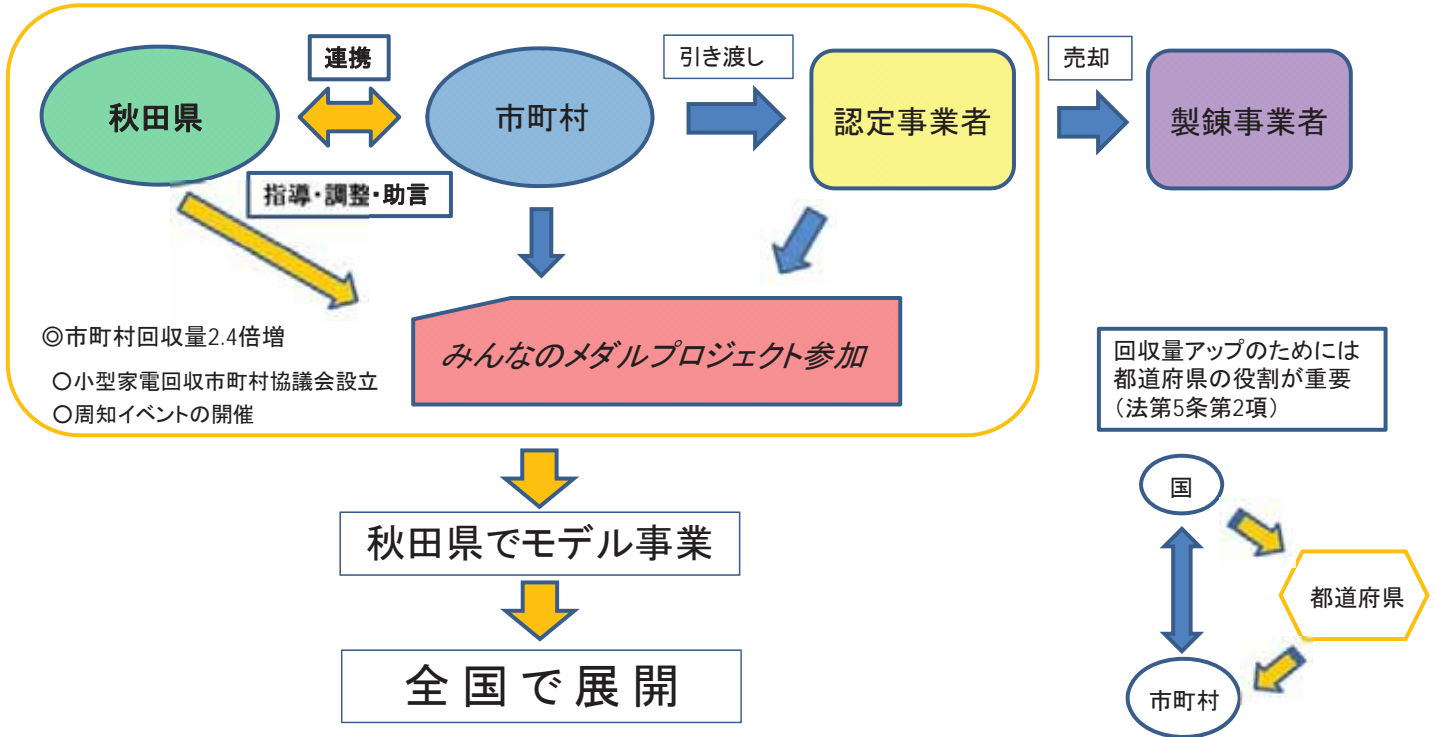
②イベント回収



③協力事業所回収ボックス

○小型家電の回収増へ向けての取り組み

回収量を増やす新たな枠組み



①小型家電リサイクルへの取組状況

- 拠点回収** 市役所・公民館など市内11か所
30品目（平成25年7月1日～）
- 宅配回収** 小型家電リサイクル法の認定事業者 400品目
(リネットジャパン(株)と平成26年6月12日協定締結)
- イベント回収** 大府市産業文化まつりなど

- 大府市として、リネットジャパンによる宅配回収の位置付け
 - ・ 無許可の不用品回収業者に渡さない(不法投棄防止対策)
 - ・ 重いパソコン等を回収場所まで運ぶことが困難な方への対策
 - ・ 情報を消去できない人へのデータ消去サービス
 - ・ 市で回収しない小型家電も網羅する(400品目)
 - ・ 市やリネットジャパンも積極的に小型家電回収の必要性をPRすることにより、相乗効果を狙う
- 市民の方々が、小型家電を捨てずに「都市鉱山」「資源」と認識し、地球環境について考えたり、「もったいない」と自らの行動につなげたりすることを目的として事業を推進

大府市とリネットジャパンの連携事業

- ・ 市ホームページに宅配回収リネットジャパンのホームページをリンク貼付
- ・ リネットジャパンがYou Tubeに協定締結の様子を投稿
- ・ 産業文化まつりの環境課ブースでPR、リネットジャパンもブース出展
- ・ 市内全戸配布している「資源の出し分け方ちらし」に掲載 など



②リサイクルメダルに関する取組状況

産学官連携 「都市鉱山メダル連携促進委員会」を発足

- 平成28年10月に発足
発起人は、大府市・至学館大学・リネットジャパン(認定事業者)
 - 都市鉱山メダルを起案した東北3市からも応援メッセージ
 - リオ五輪で活躍したアスリートからも応援メッセージ
- 金メダルのまち「大府市」から、金メダルをつくる「大府市」へ
 - 市民マラソン大会のメダルを都市鉱山でつくるPJを始動(後述)
 - オリンピックメダルを都市鉱山でつくるための具体策の提言
- オリンピック組織委員会へ、認定事業者の連合と一緒に提案
 - 全国の自治体を中心とした取組にすることを提言(提案は無事に採択)
 - 大府市から全国の自治体へ呼びかけ、提案時は126自治体から賛同
- 今春から、オリンピックの都市鉱山メダル運動(回収)も開始
 - メダル運動により、市民のリサイクル意識が向上へ
 - 公共施設だけでなく、回収拠点として民間事業者の協力も拡大へ(案)小型の回収ボックスを食品スーパー等に設置し宅配便で回収等
 - リサイクルメダル運動が、無形のレガシーとなることを期待



都市鉱山メダル連携促進委員会 発足式 (吉田沙保里さん等、金メダリスト4人が参加)



みんなの応援が(メダルに)詰まっていると思うと、より頑張れる。

発足式時のコメントより

吉田沙保里さん

③大府市で先行実施しているリサイクルメダル運動

- 大府シティ健康マラソン大会のメダルを都市鉱山でつくるPJを平成28年10月からスタート → オリンピックと同等のメダルを進呈予定
- アスリートへの応援と、都市鉱山リサイクルの願いをこめて、「**ゴールドラッシュ2020**」の名称で運動を実施中



- 従来のボックス回収・宅配便回収に加え、市内の大学等、回収拠点を拡大中
また、イベントでのPR等も強化中
- 運動をスタートしたことで、**回収量は1.6倍**に増加 ※前年同期比
- 全国自治体と連携したオリンピックメダル運動での回収増も期待（本市の成功事例は他自治体へも発信）

いらなくなった携帯電話・パソコンで
2017年マラソン大会の
メダルをつくろう！
～ ゴールドラッシュ2020運動 ～

リサイクル回収に、ご協力ください。

回収した携帯電話・パソコンは、2017年の大府シティ健康マラソン大会のメダルとして活用されます。

都市鉱山リサイクル推進促進委員会 大府市 聖徳大学

都市鉱山メダル連携促進委員会 発足式

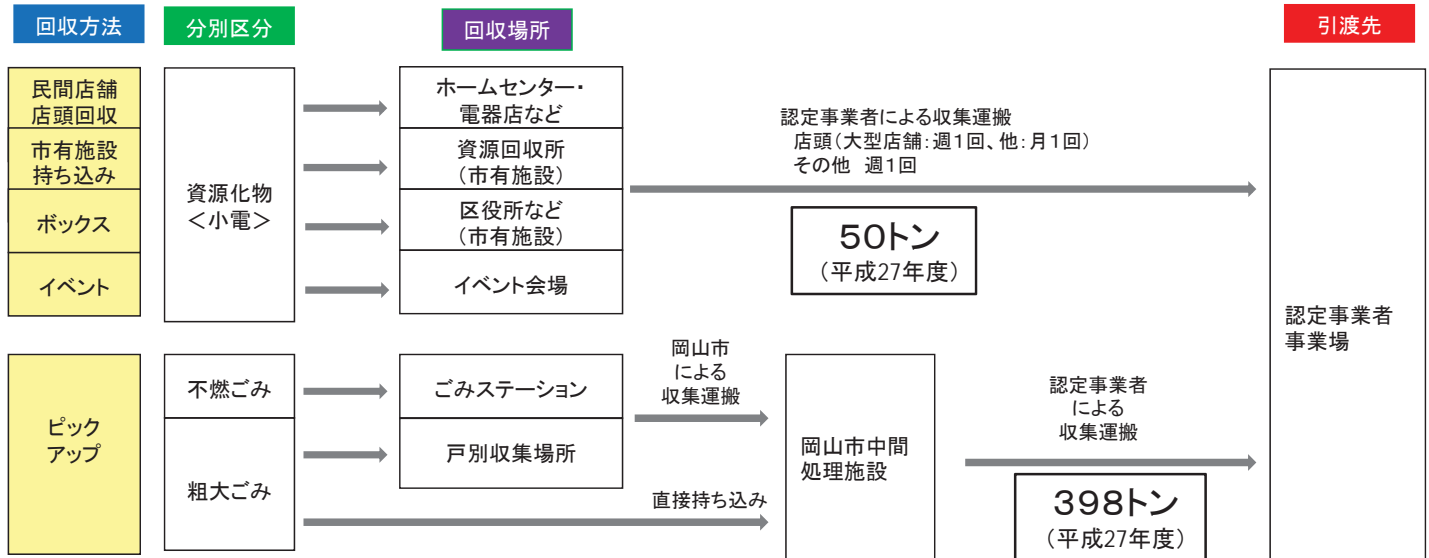
携帯電話・パソコンの回収方法など、詳しくは裏面をご覧ください。

イベント等で配布しているチラシ

①小型家電リサイクルへの取組状況

○ 岡山市の場合

- 回収方法 …… 民間店舗店頭(108店舗)、市有施設(3カ所)、ボックス(5カ所)、イベント、ピックアップ。
 回収対象品目 …… 民間店舗店頭、市有施設 : 18リットル缶未満の大きさのもの(粗大ごみにあたらないもの)
 ボックス回収 : 投入口(30cm×15cm)から入るもの
 ピックアップ回収 : 制度対象品目全品目



1

②リサイクルメダルに関する取組状況

○ リサイクルメダルについては、店頭、資源回収所、ボックス回収での啓発等の取組を実施する。

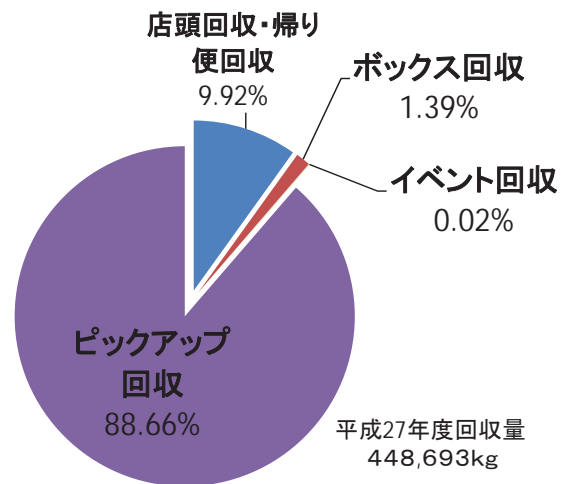
オリンピック効果は全国で享受しよう

店頭や回収所での回収量を増やしたい！！



自治体回収ルートでの回収率UPの効果大

- オリンピック効果で、市民認知度劇的向上！
- 自治体回収ルートなら幅広い国民が参加可能
- 回収率向上と事業安定化が図られ、将来的に持続可能な回収ルートの確立



店頭回収の量がピックアップ回収の量に迫るよう取り組む。

2